「簡易な施工計画」作成の注意点

　総務省が進める「新たな自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化」により、総合評価（簡易な施工計画）申請書（様式２）の標準様式をワードファイルに変更しています。

　平成２９年７月１日以降に簡易な施工計画を「一太郎」で作成して申請する場合は，ＰＤＦ形式に変換して申請してください。

　なお、簡易な施工計画をワードファイルで作成した場合も、なるべくＰＤＦ形式にて提出するようにしてください。

企業名：

簡　易　な　施　工　計　画

次の工事について、この申請書の内容と同等又は同等以上の施工を行うことを誓約し、申請します。

　工　　事　　名 ：令和5-6年度 高台整備工事（公園造成他）

|  |  |
| --- | --- |
| 評　価　項　目 | 「品質・施工の確認方法、工事遅延リスク回避の対応」の適切性 |

|  |
| --- |
| 具　体　的　な　施　工　計　画 |
| 　本工事では、地山を切土して高盛土し基盤整備を行うことから、盛土の品質は施工の良否に大きく左右される。そこで、造成地盤の品質確保のための具体的な施工計画について記述する。また、本事業においては、基盤造成工事に続いて、防災公園整備、こども園の整備が予定されており、本工事の遅延は、防災公園、こども園の整備スケジュールにも大きく影響する。ついては、本工事を遅滞なく円滑に施工する上で、必要な工程管理方法等について具体的な方法を記述する。これらのことを踏まえて、次の全ての項目について具体的に記述すること。1. 造成地盤の品質・性能を確保するため配慮すべき事項
2. 工事遅延リスク回避に配慮すべき事項
 |

※Ａ４版１枚（１ページ）に記入し、記述する文字にアンダーラインを使用しないこと。

企業名：

簡　易　な　施　工　計　画

次の工事について、この申請書の内容と同等又は同等以上の施工を行うことを誓約し、申請します。

　工　　事　　名 ：令和5-6年度 高台整備工事（公園造成他）

|  |  |
| --- | --- |
| 評　価　項　目 | 「品質・施工の確認方法、工事遅延リスク回避の対応」の適切性 |

|  |
| --- |
| 具　体　的　な　施　工　計　画 |
| 1. 造成地盤の品質・性能を確保するため配慮すべき事項
2. 工事遅延リスク回避に配慮すべき事項
 |

※Ａ４版１枚（１ページ）に記入し、記述する文字にアンダーラインを使用しないこと。

＜記述上の留意点＞

企業名：

簡　易　な　施　工　計　画

次の工事について、この申請書の内容と同等又は同等以上の施工を行うことを誓約し、申請します。

　工　　事　　名 ： Ｒ○○　○○○○○工事　　←※工事名が間違っていないか確認を！

|  |  |
| --- | --- |
| 評　価　項　目 | 「品質・施工の確認方法、工事遅延リスク回避の対応」の適切性 |

|  |
| --- |
| 具　体　的　な　施　工　計　画 |
| ○○ということ（工事特性）に鑑み、○○する観点から，次の事項について記述すること。　①　○○・・・　②　△△・・・ 　③ ■■・・・ 　④ ××・・・ ※①の項目についての記述に対して、②の項目で評価することはないので，　　テーマに沿った記述になっているのか、再確認を！特に具体的な施工計画（「工程管理」の適切性に係る（補足：工程表）を除く。）を記述する枠（以下「記述枠」という。）内の文字の大きさの規格は10.5ﾎﾟｲﾝﾄ以上とする。　なお、「記述枠」の規格値は縦21.0cm，横17.0cm以内とし、55行以内で規格値以内の「記述枠」内にアンダーラインを使用しないで記述することとし、アンダーラインを使用して記述した箇所については、評価の対象としないので注意すること。　また、執行機関での印刷結果において、以下の項目に一つでも該当する場合は、「記述枠」内の全ての記述を評価の対象外とする。① 文字の大きさが明らかに10.5ポイントを下回る場合 ②「記述枠」が縦・横いずれか一方でも規格値から５mmを超えて大きい場合③「記述枠」内に56行以上の記述がある場合④ Ａ４版でない場合⑤ 指定の枚数を超えて記述している場合注１：手書きの場合も同様とする。注２：文字のうち、写真・図・表等（以下「図表等」という。）の表題，図表等と一体とみなすことができる名称等，また，英数字・単位・記号・カタカナ等は上記①の対象外とする。注３：「記述枠」内に町が記載している文章については、テーマ番号以外は削除しても良いが、記載が残っている場合は、行数に含める。注４：空白行は、行数に含めない。注５：写真・図は行数に含めないが、表中の行は行数に含める。＜記述枠：縦21cm×横17cm以内に制限＞ |

※Ａ４版１枚（１ページ）に記入し、記述する文字にアンダーラインを使用しないこと。